

# WISC—Ⅲ解釈の手順

## STEP1 妥当性の検討

- ・実施方法に誤りはないか。
- ・採点に誤りはないか。
- ・検査方法は適切であったか。
- ・児童の当日のコンディションはどうか。
- ・十分なラポールが取れていたか。
- ・検査時の行動観察を確認

## STEP2 全検査 IQ (FIQ) の検討

- ・平均は 100

## STEP3 言語性 IQ (VIQ) と動作性 IQ (PIQ) の差の検討

- ・有意差が見られるか。(5%水準を使う)
- ・FIQ の妥当性の検討

言語性 IQ (VIQ) : 言語理解 VC 注意記憶 FD

- ・言語性能力
- ・聴覚—音声処理課程の能力

動作性 IQ (PIQ) : 知覚統合 PO 処理速度 PS

- ・動作性能力
- ・視覚—運動処理課程の能力

## STEP4 群指数の検討

- ・それぞれの水準の確認
- ・有意差が見られるか。(5%水準を使う)
- ・言語性 IQ と動作性 IQ 及びその有意差の妥当性を検討
- ・強い群指数から支援を考える。
- ・弱い群指数から支援を考える。
- ・群指数パターンから支援を考える。

・言語理解 VC :

言語的な情報や、自分自身もつ言語的な知識を状況に合わせて応用できる能力

・注意記憶 FD :

注意を持続させて聴覚的な情報を正確に取り込み、記憶させる能力

・知覚統合 PO :

視覚的な情報を取り込み、各部分を相互に関連付け、全体として意味のあるものへまとめ上げる能力

・処理速度 PS :

視覚的な情報を事務的に数多く、正確に処理していく能力

IQ とパーセンタイルの確認

IQ	パーセンタイル	水準
130 以上	98 以上	非常に優れている
120—129	91—97	優れている
110—119	75—90	平均の上
90—109	25—74	平均
80—89	9—24	平均の下
70—79	3—8	境界線
69 以下	2 以下	精神遅滞

## STEP5 プロフィールの検討

- ・強い、弱い下位検査能力を見つける。
- ・過大評価しすぎないように注意する。

